

# 平成 27 年度 政策評価シート

基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保
まちづくりの方向性	<p>「長寿の里」、「子育て・子育ての町」として、子どもから高齢者まで、誰もが、豊かな自然環境と生活環境の中で、健康で安心して暮らすことができ、さらに、住環境、子育て・子育て環境、教育環境を充実することにより、「生活の質」の向上を図ります。</p> <p>そのため、町民の知恵と努力がまちづくりに活かされるとともに、町民同士の協力と支え合いにより、地域コミュニティが息づくまちづくりを進めます。</p> <p>また、「生活の質」を向上させることにより、子育て世代を中心に定住人口の確保に努めます。</p>

## 取組状況

	重点的方針	内容	実績の推移			備考
			H25	H26	H27	
1	高齢者等の安心な暮らし支援	「長寿の里」として、高齢者等が生きがいを持って健康に、住みなれた居住地で暮らし続けることができるように、町民同士又は町民と行政の協力・連携により、高齢者等の暮らしをみんなで支え合うまちづくりに取り組みます。	B	B	/	
2	子育て・子育て支援と教育・学習環境の充実	町の特徴を活かして、「子育て・子育ての町」として、安心して子どもを産み育てることのできるまちづくりをさらに進めていきます。 子どもたちの生きる力を育むために、学ぶ力の育成と体力の向上に取り組みます。 福祉、教育部門だけでなく、行政の様々な部門が連携して総合的な取組を行います。	A	A	/	
3	協力と支え合いによる福祉のまちづくり	二宮町社会福祉協議会など地域の多様な福祉活動の担い手と連携しながら、基本構想の「3つの理念」で掲げる「地域の力」によって支えられる地域福祉の充実を推進します。 生涯学習や町民が「ふれあい農園」や家庭菜園を通して農業と親しむなど、様々なまちづくり施策と連携した取組を進めるとともに、調整や橋渡し役として行政のコーディネートの機能の充実化を図ります。	B	B	/	
4	子育て世代の定住促進	住み良いまちづくりを推進することにより、「生活の質」を向上させ、誰もが「住んで良かった」と言える町にするとともに、地域全体で子育てを支援することにより、子育て世代を中心に定住者の増加に努めます。	B	B	/	

町民満足度調査の結果 重要度 100 重要 75 やや重要 50 どちらとも言えない 25 あまり重要でない 0 重要でない

満足度 100 満足 75 やや満足 50 どちらとも言えない 25 やや不満 0 不満

	設問内容	重要度		満足度		重要度と満足度の差
		前回調査	H27	前回調査	H27	
	高齢者等の安心な暮らし支援		81.4		53.2	28.3
1	高齢者の社会参加の支援		78.0		53.5	24.5
2	介護予防・生活支援サービスの推進		85.5		53.3	32.3
3	介護サービスの充実		87.3		55.0	32.3
4	雇用機会の充実の検討		75.0		47.8	27.3
5	保健サービスの充実		80.8		61.0	19.8
6	地域医療の充実		85.5		52.0	33.5
7	社会保障制度の普及・啓発		78.0		51.0	27.0
8	社会保障制度の適性な運用		81.3		51.8	29.5
	子育て・子育て支援と教育・学習環境の充実		80.7		53.2	27.5
1	母子保健の充実		84.0		59.0	25.0
2	出産支援の充実		83.0		56.0	27.0
3	保育環境の充実		82.8		50.8	32.0
4	「親育ち」の充実		73.0		50.3	22.8
5	学童保育所の充実		82.0		52.8	29.3
6	教育内容の向上		81.3		50.3	31.0
7	教育環境の整備の推進		84.0		49.8	34.3
8	安全・安心な教育施設の整備		84.8		54.8	30.0
9	教育活動の充実		77.3		55.0	22.3
10	地域間交流		75.0		53.5	21.5
	協力と支え合いによる福祉のまちづくり		75.4		50.0	25.4
1	二宮町社会福祉協議会との協力・連携		71.0		51.3	19.8
2	相談・情報提供の充実		76.0		48.5	27.5
3	地域福祉の充実		75.8		50.5	25.3
4	相談・情報提供の充実		78.3		50.0	28.3
5	就労・社会参加の促進		79.0		49.8	29.3
6	住宅支援の推進		80.0		49.5	30.5
7	ユニバーサルデザインの普及		72.0		48.3	23.8
8	コミュニティ活動支援		71.3		52.0	19.3
	子育て世代の定住促進		77.5		51.8	25.8
1	子育てサロンの充実		79.3		55.0	24.3
2	子育てコミュニティづくりの推進		79.5		52.8	26.8
3	住まいの確保・住環境の整備・誘導		73.8		47.5	26.3

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する          B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する          C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある          D: 政策全体を見直す必要がある</p>	B
	説明	<p>基本構想「生活の質の向上と定住人口の確保」における4つの施策「高齢者等の安心な暮らし支援」「子育て・子育て支援と教育・学習環境の充実」「協力と支え合いによる福祉のまちづくり」「子育て世代の定住促進」について、町民が重要と考える割合と満足度の差に着目すると、「高齢者等の安心な暮らし支援」「子育て・子育て支援と教育・学習環境の充実」の2つの施策について、重要度と満足度の差が大きい。また、個別事業では、介護予防・生活支援サービスの推進、介護サービスの充実、地域医療の充実、保育環境の充実、教育環境の整備の推進について、重要度と満足度の差が大きく、さらなる取り組みが求められる。</p> <p>今後、団塊の世代が全て後期高齢者となる2025年に向けて高齢者が住み慣れた場所で安心して生活を続けられるよう、町民や町民団体、関係機関と共に環境整備に努めるとともに、子育て環境や教育環境の整備に努め、多様な世代の転入増加を目指し、住みたい町としての発信力の強化と、転入動機となるような事業展開が必要である。</p>

外部評価[まちづくり評価委員会]		
	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する          B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する          C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある          D: 政策全体を見直す必要がある</p>	B
意見等	<p>生活の質の向上と定住人口の確保について、政策としての方向性は間違っていないが、施策や取り組みを改善する余地は十分にある。</p> <p>個別の施策は着実に実施されているが、政策の評価判断を定量的にするならば、定住人口の確保はできていない。また、定量的判断とともに質的判断の評価視点が重要であることを考えると、町に財源、活気やイノベーション等を生み出すような人材を確保する必要がある。そのような人材確保による二宮町民の生活の質の向上を目標とすれば良い。以上のように縦割りで評価した結果、評価が高い傾向にあるが、政策をより効果的に推進していくためには、横断的に取り組むことが必須と考える。</p> <p>生活の質の向上においては、地域ごとの特性・シーズを、子供から高齢者までの幅広い年齢層のニーズに適合させるよう必要な対策を講じ、買物や交通環境などの地域課題をひとつひとつ解決していくことが重要であると考え。対策を講じる上ではスピード感が重要であり、庁内の組織なども細かく分かれすぎていることからスリム化を図る必要がある。</p> <p>時代とともに商店街に魅力がなくなってきたが、若い人ややる気のある人が取り組みやすい環境をつくる必要がある。物を売るだけでなく「こと(事)」を売るという視点で、魅力の向上や元気を取り戻すことに取り組む必要がある。</p> <p>定住人口の確保においては、働く場所がないことが人口流出の一次要因となっていると考える。人口が減少していくことは明白であること、生活の質の向上を図る中で、定住に必要な仕事を二宮町単独で考えるのではなく、近隣市町と連携することで、まずは近隣で働く場所の確保を行い、二宮町の住み良さ、暮らしやすさのPRを行う必要がある。そして、ゆくゆくは二宮町においても働く場所を作りやすくなるような環境づくりを町が施策等で主体的に行うことで、バランスのとれた定住人口の確保ができる。</p> <p>人口減少・少子高齢化が進行する今後は、施策の横断的な取り組みや広域的な視点を持ち、二宮町単体の力だけではなく、様々な分野、町民、行政の広域的取り組みのネットワークにより総合力を上げながら、住みやすさやコンパクトさを活かした政策を進め、子供から高齢者まで「みんなでみんなを支え合う地域づくり」や高齢者をみんなで支え合う「地域包括ケア」の仕組みづくりをすることが、生活の質の向上と定住人口の確保に繋がると考える。</p>	

## 町の最終方針[庁内評価委員会]

### 方向性

基本構想「生活の質の向上と定住人口の確保」については、町民満足度調査において重要度が高かったものの、外部評価において施策の改善に関する指摘があったことから、これまでの取り組みをベースに、施策を一部改善し、さらなる展開を図る。

政策の実現にあたり、施策や事業に対し、横断的な発想や広域的な視点を持ち、地域ごとの実情や、多様化する町民のニーズを考慮し、スピード感をもって推進する。

コンパクトな町ならではの特性を活かし、子どもや子育て家庭を地域コミュニティで支える支援体制や子育てコミュニティの構築、特色ある学校づくりによる教育内容の充実と教育と地域社会の連携の推進、高齢者が地域の中でいきいきと暮らすことができる生活環境づくりの推進と地域包括ケアシステムの強化等により、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らすことができる環境の整備を行う。また、すべての世代がコミュニティ活動に参加しやすく、安全・安心に住み続けることができるコミュニティの醸成を支援し、町民相互の協力と支え合いによるまちづくりを進める。

こうした取り組みに加え、「二宮町に住み続けたい」「二宮町に戻ってきたい」「二宮町に住んでみたい」と思ってもらえるような、町の良さを活かしたライフスタイルを確立し、戦略的なプロモーション活動を展開することにより、子育て世代を中心に幅広い世代の転入を促進し、町外への転出を抑制する等、新たな人の流れを創出し、この町の環境を活かした「生活の質」の向上と「定住人口」の確保を図る。